

## 中国における農民工の実態（要旨）

現在著しい発展を遂げている中国だが、その発展の裏で国民の格差は広がるばかりである。とりわけ、都市・農村間の格差は著しく、中国は国内に先進国と発展途上国を併せ持っているような状況となっている。

このような現状の裏には中国特有の戸籍制度がかかわっている。中国には、都市戸籍と農村戸籍があり、国民の生まれた土地によって戸籍区分が行われている。一般的に都市戸籍民の方が社会保障制度等の恩恵を受けやすく、農村戸籍民は都市に出る際、これらの保障を受けることができない。また、この戸籍区分は中国国民が生涯にわたり背負っていくものであり、自身の都合から簡単に転出入するといったことは認められていない。この戸籍制度は現在でも続き、都市民と農民の格差の象徴となっている。

本論では、農村戸籍を持ち、都市に出稼ぎに出てきた農民工と呼ばれる人々に焦点を当てている。農民工は現在、中国国内に 2 億 5,000 万人いるという。中国の貧困層に位置付けられる農民工について、彼らの実態と抱えている問題を論じ、それらに対しどのようなアプローチをとることができるかを考えていく。

まず、農民工が抱える問題として、農民工に対する社会保障、農民工と労働組合、農民工の人権、農民工子女の教育を挙げ、それらについて分析を行っている。そこから見えてくるのが、農民工に対する政府の不十分な対応である。近年は、以前に比べ農村、農民工の待遇改善に向け法制度が改正されるなどしているが、省ごとの対応がまちまちであり、改善の余地があるものも多い。また、法の整備はされたが、農民工自身がそのことを知らなかったり、都市民との感情面での障壁が邪魔をし、自身の権利を主張できないといったこともある。

次に、これらの問題に対し、①戸籍制度の抜本的改革、②農民工主体の組合創設、③マスメディアの有効活用、④県レベルの地域経済の発展を促進させる、といった 4 つのアプローチを考える。政治体制が異なるなか、先進国の物差しで、そのまま中国の問題点を考えていくことは難しいだろう。そのため、アプローチのなかには、現在の中国国内の政治体制では困難なものや、対策として不十分なものも存在する。しかし、徐々にこういった取り組みを進め、中国の国民一人一人が国内の格差に目を向け、行動していこうとする気持ちが生まれることが大切なのではないだろうか。

また、こうして中国の問題を知り、どういったことが我々にできるのか考えていくことは、中国と経済的にもパートナーとして歩んでいる日本にとっても、有意義なことであろう。